



学校経営・地域との連携

4	<p>通学時の安全や、不審者対応等を学校はきちんと行っている。</p>	<table border="1"> <tr> <td>84</td> <td>55</td> <td>42</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1</td> <td>#</td> <td>#</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> </table>	84	55	42	3	0	8	1	#	#	4					1	
	84	55	42	3	0													
8	1	#	#	4														
				1														
<p>登下校時の安全確保については、「児童自身の安全な対応」、「見守りの活動」、「情報の伝達」等があげられます。については、学期に数回は機会を捉え、配布物を基に危機管理の行動、意識の向上に向けての指導を行っています。については、職員が毎日、あいさつ運動を兼ねて、パトロールを実施しています。又、多くの地域の方のボランティア活動にも支えられて、安全確保がなされています。特に、悪天候にも関わらない見守り活動には、感謝に堪えません。については、1月から「メール配信」を実施いたします。（携帯電話所持者、全て登録願います）また、児童や教職員の安全管理意識と実践力の向上に向けて、不審者対応研修なども実施しています。また、休み時間の防犯のパトロール（職員）、門扉の戸締まり、樹木伐採で見通しの良い校庭になるよう努めています。</p> <p>今後、保護者の皆様にさらなる安心をしていただけるように、年度始めに「本校の防犯対策」「児童の一日の生活」などを配布し、安全対策をお知らせする予定です。下校時や放課後の児童の安全については、保護者や地域の方々の協力を得る工夫を行います。</p>																		
5	<p>学校は地域との連携をきちんと行っている。</p>	<table border="1"> <tr> <td>8</td> <td>1</td> <td>#</td> <td>#</td> <td>6</td> <td>0</td> </tr> </table>	8	1	#	#	6	0										
	8	1	#	#	6	0												
<p>学校と地域の連携で重要なことは「人間関係」だと考えています。教職員と地域の方々との「人間関係」を育むために、職員が地域の催しに出向き、地域の方々との人間関係づくりに努めて参りました。地域の方が、「学校教育に理解と協力を抱く」基盤づくりに取り組んだ結果、学校教育に対して、賞賛・ご忠告などを多数いただくことが出来ました。また、各種ボランティアの申し出が増えてきました。次年度は、地域の方々のボランティア活動やゲストティーチャーとしての取り組みが推進できる事と思います。</p>																		
6	<p>お子さんは楽しく学校に通っている。</p>	<table border="1"> <tr> <td>91</td> <td>75</td> <td>23</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>1</td> <td>#</td> <td>#</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> </table>	91	75	23	2	0	9	1	#	#	3					0	
	91	75	23	2	0													
9	1	#	#	3														
				0														
<p>多くの子どもは「楽しく学校に行けている」と判断し、安心していますが、「登校を渋る子」「あまり楽しくない子」もいることも現実ですので、個々の子どもに合った取り組みに努力をしているところです。「楽しい学校づくり」に向け、教師と子ども、子どもと子どもの「より良い人間関係づくり」等の取り組みを強化していきたいと考えます。また、子ども達の中には、登校時から元気のない姿も見受けられますから、家庭とも相談しながら取り組む必要があると考えています。</p>																		
7	<p>お子さんは、宿題や家庭学習など、しっかり取り組んでいる。</p>	<table border="1"> <tr> <td>79</td> <td>45</td> <td>47</td> <td>7</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>3</td> <td>#</td> <td>#</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> </table>	79	45	47	7	1	8	3	#	#	3					1	
	79	45	47	7	1													
8	3	#	#	3														
				1														
<p>何事も学んだことを身につけるトレーニングをしなければ、身に付きません。学校で学習した事のトレーニング場所は、家庭が中心になります。その学年や児童の実態にあった、宿題や家庭学習が必要になります。学校では、各担任から出される宿題の他に、家庭学習を進めています。行う内容については、「家庭学習の進め」（ホームページ掲載）を配付し、家庭学習定着に向けて保護者の皆様にもご協力をお願いしているところです。</p>																		

子どもの様子・学校の教育活動

8	<p>戸田小の児童は、あいさつが良くできている。</p> <p>「あいさつ」は先人が残してくれた「生きる知恵」だと考え、機会を捉え学校全体で指導をしているところです。また、本校のあいさつ運動も2年前から、高学年児童・職員が「朝のあいさつ運動（毎日）」を行い、登校時（昇降口）には元気な挨拶の声が飛び交っています。しかし、まだ十分とは考えていません。さらなる指導の工夫や「あいさつ」をする雰囲気づくりに取り組む必要があると考えます。</p> <p>「あいさつする子ども」は家庭でも生活習慣として定着しているようです。家庭での「あいさつする」習慣づくりの指導のご協力もお願いいたします。</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>58</td> <td>15</td> <td>49</td> <td>30</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>65</td> <td>#</td> <td>#</td> <td>22</td> <td>2</td> </tr> </table> <p>Detailed description: A pie chart with five segments. The largest segment is B54% (horizontal lines). Other segments are C22% (dots), D2% (diagonal lines), A22% (vertical lines), and an unlabeled segment (white).</p>	58	15	49	30	6	65	#	#	22	2
58	15	49	30	6								
65	#	#	22	2								
9	<p>戸田小の児童は、交通ルールをよく守っている。</p> <p>登下校時、下校後の自転車の乗り方などについて、多くの意見をいただきました。また、注意していただいたのに、素直にご忠告を聞かない児童がいることが明確になりました。学校では、1学期に「交通安全教室」「自転車の乗り方」「下校指導（学期1回）」などを行い、日常的な「交通安全」「登下校の仕方」の指導を行っていますが、指導の効果が定着されていないようです。児童の社会性や命に関わる内容ですので、定着に向けて、継続的な指導を行っていきます。自転車の乗り方に関わる「ヘルメットの着用」については、保護者の皆さんのご理解なくしては出来ない事です。子どもの交通事故で一番多いのは「自転車の乗り方」が関わっています。「ヘルメット着用が命を守る」を合い言葉に指導を強化していきます。</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>59</td> <td>11</td> <td>58</td> <td>27</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>63</td> <td>#</td> <td>#</td> <td>21</td> <td>3</td> </tr> </table> <p>Detailed description: A pie chart with five segments. The largest segment is B59% (horizontal lines). Other segments are C21% (dots), D3% (diagonal lines), A7% (vertical lines), and an unlabeled segment (white).</p>	59	11	58	27	4	63	#	#	21	3
59	11	58	27	4								
63	#	#	21	3								
10	<p>戸田小の児童は、ていねいな言葉遣いや社会のルール・モラルなど、場に応じた望まない言動をとることができる。</p> <p>学校生活での約束ごとやルールの定着を図るためにも、工夫を凝らして指導しています。徐々にではありますが、効果が現れてきていると判断しています。また、社会性を育てる取り組みは一朝一夕に効果が上がるとは言い難いものがあります。今後とも、各ご家庭の協力が必要です。社会性を育てる基礎になる「基本的生活習慣」の手引きなどを作成し、各ご家庭でも取り組みやすいような工夫をしていきたいと考えています。</p> <p>社会性を身につける機会は「人が集まる場所」全てで行われます。小集団の家庭・地域活動の中で養う「社会性の基礎」の体得が重要でもあります。各家庭と連携をして取り組んでいきたいと考えます。</p> <p>「社会で活躍する人」「人を大事にする言葉」配付・ホームページ掲載</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>64</td> <td>#</td> <td>#</td> <td>20</td> <td>3</td> </tr> </table> <p>Detailed description: A pie chart with five segments. The largest segment is B60% (horizontal lines). Other segments are C20% (dots), D3% (diagonal lines), A17% (vertical lines), and an unlabeled segment (white).</p>	64	#	#	20	3					
64	#	#	20	3								
11	<p>教職員は、児童個々によく注意を払い、学級経営や児童の指導に努めている。</p> <p>日常的な児童理解に取り組んでいます。さらなる児童理解と学級内の様々な人間関係をより良くするために、年2回の児童理解週間を設け学級の実態に合わせた取り組みを行っています。また、今年度は2回にわたり「児童アンケート」を行い、「楽しい学校」づくりに取り組んでいます。</p> <p>今後も日常的な児童理解に向けて、調査の生かし方、子どもとの相談等、児童理解に工夫をこらし「子どものつづきやきや訴え」を「聞き逃さない」という姿勢で取り組んでいきます。</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>79</td> <td>43</td> <td>52</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>80</td> <td>#</td> <td>#</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> </table> <p>Detailed description: A pie chart with five segments. The largest segment is B51% (horizontal lines). Other segments are C3% (dots), D0% (diagonal lines), A46% (vertical lines), and an unlabeled segment (white).</p>	79	43	52	4	1	80	#	#	3	0
79	43	52	4	1								
80	#	#	3	0								

子どもの様子・学校の教育活動

12	<p>教職員は、一人一人の個性を大切に、学習内容をきちんと指導している。</p> <p>学校では、分かる授業・楽しい授業に向け、実態把握、教材の工夫、指導の工夫などを行っています。厳しい結果ととらえています。「確かな学力」の定着に向け、今後も指導の工夫を図りたいと考えています。「学力の定着・向上」は学校での取り組みも重要ですが、子ども達の「規則正しい生活習慣」が大きな影響をもたらしています。「早寝・早起き・朝ご飯」運動の推進や子ども達の「学習する構え」を育てる取り組みを具体的に行わなければならないと考えています。「授業が楽しい」と答える子どもを増やすための努力をする必要があると考えています。さらに、指導の工夫を進め、「知る、考える、工夫する、話し合う等」の学習が楽しく出来る研修を重ねていきたいと考えています。中高学年においては、引き続き少人数指導（小グループでの学習）・TT（2人の教師が指導）を取り入れて行っていきます。また、「理科学習補助教員」「学習ボランティア」にも協力していただきながら対応をしているところです。</p>	<table border="1"> <tr><td>79</td><td>43</td><td>52</td><td>4</td><td>1</td></tr> <tr><td>82</td><td>#</td><td>#</td><td>2</td><td>1</td></tr> </table>	79	43	52	4	1	82	#	#	2	1	
	79	43	52	4	1								
	82	#	#	2	1								
	13	<p>教職員は、お子さんの心身の健康（いじめ・不登校等も含む）について気楽に相談できる。</p> <p>学校では、学級内や学年内などで「いじめ」の実態の有無の把握を行い、即時対応の姿勢で取り組んでいます。また、「教育相談箱」の設置や年2回の児童理解週間、「心の相談室（教育相談）」（月・水）、カウンセラーなど専門の職員が実態把握と相談に応じています。</p> <p>その他、日常の児童観察の中から、子ども達の些細なトラブルの把握に心がけ、職員の共通理解のもとに、対応を行っています。</p> <p>これらの取り組みの結果、2学期は長期欠席者が皆無となりました。</p> <p>これからも、人権教育の推進に努めながら、事態発生時の内容に即した対応、保護者・関係機関と連絡を密にした指導を行っていきます。</p>	<table border="1"> <tr><td>72</td><td>34</td><td>52</td><td>11</td><td>3</td></tr> <tr><td>83</td><td>#</td><td>#</td><td>4</td><td>0</td></tr> </table>	72	34	52	11	3	83	#	#	4	0
72		34	52	11	3								
83		#	#	4	0								
14		<p>学習ボランティアや保護者、地域の方々様々な支援により、教育効果が上がっている。</p> <p>例年、保護者や地域の多くの方々に、ボランティアとして活躍していただいています。例えば、読書ボランティア・家庭科実習・生活科校外学習安全ボランティア・総合学習ボランティア等を行っていただき、指導効果を上げていると考えています。3学期には、大学生の学習ボランティアも入ります。ただし、アンケート結果から判断すると、保護者の皆様にボランティア活動の様子が伝わっていないと考えられますので、これらの、情報伝達の方法を工夫して行かなければならないと考えています。アンケート結果から「保護者ボランティア」を望む、また、応募されたい保護者が増え、様々なボランティア活動を推進する土壌ができあがっていると判断し、「保護者・地域の方々ボランティア活動」を推進する取り組みをしていきます。</p>	<table border="1"> <tr><td>85</td><td>36</td><td>55</td><td>8</td><td>1</td></tr> <tr><td>79</td><td>#</td><td>#</td><td>4</td><td>1</td></tr> </table>	85	36	55	8	1	79	#	#	4	1
	85	36	55	8	1								
	79	#	#	4	1								
	15	<p>3年生以上で行われている少人数指導は、算数の基礎学力向上に効果的である。</p> <p>本校の少人数指導は、14年度から実施されています。児童の実態に合わせた効果がなされていると考えますが、ご意見や集計結果、児童の実態から考え、指導の内容・進め方・指導の姿勢など、強く反省しなければならない結果だと考えます。効果的な指導の仕方、グループの分け方などを含めた、教材研究・進度の打合せ等を十分行い、取り組んでいきます。また、担任以外の授業では、子どもと指導者の人間関係も大きく左右することが考えられます。教科担任との交流活動も増やし、効果を上げるべく工夫を行います。</p>	<table border="1"> <tr><td>81</td><td>50</td><td>45</td><td>3</td><td>2</td></tr> <tr><td>80</td><td>#</td><td>#</td><td>11</td><td>1</td></tr> </table>	81	50	45	3	2	80	#	#	11	1
81		50	45	3	2								
80		#	#	11	1								

特色有る教育活動

特色 有る 教育 活動	16	英語活動は、異文化への関心・理解を含め、お子さんに望ましい教育効果を与えている。 指導要領（学習内容・学習時間の基本の設定）では、高学年だけの英語活動が決まっています（高学年35時間）。本校では、中学年10時間、低学年5時間の英語活動も行っています。低中学年の英語活動は実施されていない学校が多くありますが、本校では時間確保の工夫を行い、5年前から実施し、スムーズに高学年での英語活動が実践出来ています。導入時期が早くから行われたため、指導者への負担が少なく、新たな指導工夫をする機会が出ています。 英語活動は英語を導入した、コミュニケーション活動で、英語を学ぶ活動ではありません。	<table border="1"> <tr><td>84</td><td>36</td><td>52</td><td>11</td><td>1</td></tr> <tr><td>78</td><td>#</td><td>#</td><td>9</td><td>1</td></tr> </table>	84	36	52	11	1	78	#	#	9	1
	84	36	52	11	1								
78	#	#	9	1									
17	生活科・総合的な学習やエンジョイタイムなどの学年・学校行事を通して、お子さんに生きる力が付いてきている。 本校では、全学年対象の芸術鑑賞・人権教室・特別活動等の体験活動のほか、各学年ごとに総合学習や生活科の学習・教科学習（理科実験・社会科・国語）等で行われています。「生きる力」の基になる、体験学習の機会が豊富であると考えます。今後、保護者の方に伝わるような工夫（お知らせの方法）が必要だと考えています。 「ふれあい教育」「豊かな心の育成」の一つとして取り組んでいる「エンジョイタイム」では、全校児童の前での発表体験を通して、「自信と勇気」を培い、児童全員による「花育て活動」では「花と笑顔の満ちあふれる学校」づくり、「やさしい心」の育みに向け、取り組んでいます。 今後も、「生きる力」を育む様々な体験学習を継続させ、実践力を高めたいと考えています。	<table border="1"> <tr><td>78</td><td>40</td><td>54</td><td>6</td><td>0</td></tr> <tr><td>82</td><td>#</td><td>#</td><td>4</td><td>0</td></tr> </table>	78	40	54	6	0	82	#	#	4	0	
78	40	54	6	0									
82	#	#	4	0									
施設・ 環境	18	校舎内外が整理され、施設の安全等がよく管理されている。 校舎内の美化や清潔なトイレについては多くの方々から、改善を促すご指摘を受ける意見が出されました。市教委でも、トイレ改修の事業を推進している中でもあります。本校では、日常的な清掃指導に重点を置き、「黙働（もくどう）」（黙って清掃活動する）の清掃指導を行っています。しかしながら、清掃用具の使い方や習熟は学校だけにゆだねられている現実があり、清掃指導の効果が不十分だと考えられます。トイレの美化については、今年度の内に数回の保護者ボランティアを募集し、清掃活動を実施いたします。（1月中旬募集予定） さらに、「トイレの使い方」「清掃指導」「校舎内の美化指導」等の工夫が必要だと考えています。 施設の「安全」については、月一回の安全点検や、使用時の安全点検等にチェック項目を設けて行っています。児童の安全が阻害される施設が発見できた場合には、直ちに使用禁止し、施設課に修繕を要請しています。現状に於いて、安全を損なう施設はありません。今後も、校舎内での安全な行動の仕方、施設の安全な使い方等の指導を徹底し、子どもの安全を確保していきます。	<table border="1"> <tr><td>86</td><td>38</td><td>54</td><td>7</td><td>1</td></tr> <tr><td>79</td><td>#</td><td>#</td><td>6</td><td>2</td></tr> </table>	86	38	54	7	1	79	#	#	6	2
	86	38	54	7	1								
79	#	#	6	2									
19	学校は、花壇・農園等体験活動のための環境がよく整備されている。 本校の花壇や農園の整備については、市内でも、良く整備されている方だと考えますし、保護者の方々から高い評価を得ていると捉えています。このことは、教職員の日常的な整備活動・児童の取り組みの賜と考えています。学校で使用している畑を学校が所有しているのは、唯一、本校だけです。この学校農園（ふれあい農園）は、耕作物を育てる体験活動や収穫祭時の調理活動に生かされ、本校児童にとって貴重な体験活動になっています。花壇や農園の整備は、児童の学習活動のみでは不十分で負担が大きくなります。今後は、農園ボランティア等の活用を探っていきます。	<table border="1"> <tr><td>88</td><td>66</td><td>32</td><td>2</td><td>0</td></tr> <tr><td>89</td><td>#</td><td>#</td><td>1</td><td>0</td></tr> </table>	88	66	32	2	0	89	#	#	1	0	
88	66	32	2	0									
89	#	#	1	0									

## 達成率の細かい説明

- 2番 プラス評価 A 4.3% B 5.5% A+B=9.8% (達成率 8.0%)
- 3番 プラス評価 A 6.2% B 3.4% A+B=9.6% (達成率 8.6%)
- 4番 プラス評価 A 5.0% B 4.5% A+B=9.5% (達成率 8.1%)
- 例5番 プラス評価 A 6.0% B 3.5% A+B=9.5% (達成率 8.5%)
- 例6番 プラス評価 A 3.0% B 6.5% A+B=9.5% (達成率 7.5%)

プラス項目 (A+B) だけを単純に合計した数で評価をすると、5項目とも殆ど同じです。しかし、AとBの割合を比べると、かなりの違いが出てきます。本校でめざしている評価のレベルは、「B やや当てはまる」ではなく、「A 当てはまる」の評価に近づける事をめざしています。

達成率は、全員が『A 当てはまる』項目を選んだ場合、達成率100%となります。

A = 3点、B = 2点、C = 1点、D = 0点とし、

アンケート実施者が100人の場合。基準は300点(3点×100人)

$[(3 \times \text{選んだ人数}) + (2 \times \text{選んだ人数}) + (1 \times \text{選んだ人数})] \div (300 \text{点})$

全員がAを選んだ場合、

$(3 \times \text{選んだ人数}) \div (300 \text{点}) = (3 \times 100 \text{人}) \div 300 \text{点} = 100\%$

例5番と例6番を細かく比較してみます。

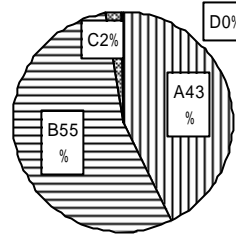
例5番 プラス評価 A 6.0% B 3.5% A+B=9.5% (達成率 8.5%)

例6番 プラス評価 A 3.0% B 6.5% A+B=9.5% (達成率 7.5%)

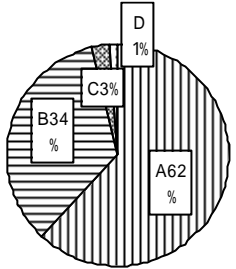
プラス評価 (A+B) で判断すると、どちらも9.5%と評価レベルは同じです。しかし、例5番はA6.0%、例6番はA3.0%と「A 当てはまる」の割合は大きく開いています。「達成率」で比較すると、例5番の方が「高い評価」を得ていることになります。

本校では、「A 当てはまる」の割合を高める教育活動を目指しています。

80 # # 2 0



86 # # 3 1



81 # # 4 1

